

新潟市 秋葉区 農業委員会だより

第 48 号

令和 2 年 1 月 1 日

編 集 ・ 発 行

新潟市秋葉区農業委員会
電話(0250)25-5525



白鳥の集団登校（荻川地区にて）

新年明けましておめでとう
ございます。皆様方には、日
頃より農業委員会の活動にご
理解とご協力をいただき心よ
り感謝を申し上げます。

昨年は、台風や豪雨による
家屋の損壊や河川の氾濫、さ
らには、猛暑による農作物等
への被害など、数多くの災害
が起こった年でした。被害に
合われた方々には、心よりお
見舞い申し上げます。

幸いのことには私達の地域で
は、それほど大きな被害はあ
りませんでした。猛暑の影
響と思われる被害は多少あつ
たように思います。

稲作においては、腹白米や
乳白米の発生で一等米比率が
大幅に低下いたしました。た
だ、収穫量は、二年続けての
不作からは少し改善されたよ
うに思われます。

野菜の生育も順調とは言え
ず、これが温暖化の影響と言
えるのではないのでしょうか。
この異常気象が常態化され



新春のお慶びを
申し上げます

会 長 小 倉 栄 造

ると、本当に困ったことにな
ります。

さて、国では、昨年産の主
食用米の生産目標値を七一八
万七千二百六十トンとしていま
したが、実際の収穫量は約七
二七万トンとのことでした。
本年度は、七〇八万七千七
七万トンと昨年より九万トン
ほど少ない目標値が発表され
ましたが、人口の減少や食生
活の変化で、主食用米の需要
はこれからも減少を続けるの
ではと懸念されます。

秋葉区農業委員会の委員も、
昨年四月に新しい顔ぶれにな
り、九月月がたちました。こ
の間、私どもは、農地利用の
最適化を推進するため、農地
の集積・集約や耕作放棄地の
発生防止・解消等に力を入れ
て参りました。

今後とも、皆様の何分のご
理解とご協力をお願い申し上
げます。

最後に、皆様方のご健勝と
ご多幸を祈念いたしました年
頭の挨拶といたします。

秋葉区女性農業者のつどいに参加して

秋葉区農業委員

佐藤 千穂子



去る十一月十三日、新津健康福祉センターにおいて、「第一回秋葉区女性農業者のつどい」が開催され、四十三名が集まりました。

秋葉区内の女性農業者同士が学び、教え合い、助け合って秋葉区の農業を盛り上げようと、農業委員会で企画しました。

内容は①学習会「身近な野菜の病虫害対策」で講師は普及指導センターの森田指導員②女性農業者団体等の活動報告③自慢の一品（郷土料理）の紹介と試食でした。

良い農産物を沢山もっている秋葉区では、直売所が四か所もあり、区内で活躍されている農業者も大勢います。しかし、現在は農業者同士、特に女性農業者が交流する機会がなかなかありません。そこで、女性農

業者が一堂に会し情報交換することにより、区内の農業が一層活性化するのではないかと考えました。

農業者の半数は女性であり、縁の下の力持ち的存在です。自分の殻に閉じこもっている、「井の中の蛙」で終わってしまいます。私は、色々な人と交流し情報を得て自分の農業に活かすことで、収入の得られる生産活動へと結びつくことを確信しています。

生産物全てが収入に繋がるような農業にして、女性農業者が精神的にも充実し、健康で元気に生産活動に励むことができる農業を目指そうではありませんか。

初めての企画であり、少し物足りないところもあったと思いますが、当日のアンケートには「継続希望」や「もっと色々な話が聞きたい」とか、「一般参加者も誘って交流が拡大することを希望する」、「集まった皆さんの笑顔が素敵だ」など、多くの好意的なご意見をいただきました。今後の参考にさせていただきます。

楽しく充実した会合であり、ご協力いただいた皆様に感謝いたします。ありがとうございました。



全国農業新聞の購読をお勧めします



農業委員会系統組織が農業者の立場に立って編集・発行している「農家のための情報誌」です。

地方版では、身近なニュースもお伝えしています。

- 発行日：毎週金曜日（月4回）
- 購読料：1ヶ月700円（税込み）年間8,400円（税込み）
- 申込み：秋葉区農業委員会事務局まで

秋葉区農業委員会委員視察研修に参加して

農政振興部会長

佐藤 英一



昨年、十一月十一・十二日の一泊二日の日程で農業委員と農地利用最適化推進委員、事務局の総勢二十二名で富山県入善町と南砺市の元気な農業法人を視察研修しました。

一日目は、入善町でサラリーマン経験を活かして法人化し多角経営を進める(有)ドリームファームを視察しました。同社の現在の経営規模は、水稲八七ha、大豆六ha、園芸作物四・五haで、鍋島会長と青木社長よりお話しを聞きました。

それによると、会社設立を機に「販売の強化と米を補完する商品の展開を図り、近隣スーパーのインショップや直売所の開設、インターネット通販を進め、併せて、加工品の商品化や自社産の米一〇〇%使用の米粉麵を生産し、香港やシンガポールへの

輸出に取り組んできた。」とのことでした。

また、「入善町は担い手への農地集積が進んでいるため、農地利用最適化推進委員制度を取り入れていないが、後継者不在の担い手が多くおり、地域農業の維持発展のためには、今後とも経営を拡大していくことが必要だ。」と言っておられました。

二日目は、南砺市の農事組合法人ファーム八乙女を視察しました。

同法人は、担い手不足に対応するため、「二集落一農場」を平成十七年に設立したとのことでした。

現在、同法人の利用権設定農家数は百四十二戸で、田中社長と澤田常務より説明を聞いた後、育苗センターや圃場を見学しました。

経営内容は、水稲一〇〇ha、大麦三五ha、大豆一五ha、露地野菜二・七haで、水稲、大麦、大豆の基本作業は、二名の役員と九名の従業員が行うこととしており、水管理や草刈りなどの水田管理作業は地主に委託しているとのことでした。

「従業員の仕事を確保するため、直売所経営や農産加工品（赤飯、おにぎり、飾り餅、切り餅等）の生産を行い、併せて、道の駅や近隣のスーパー、直売所での販売も実施している。」とお話しされていました。

地元のとみなみ農協と連携して、水稻育苗センターの運営やヘリの防除、乾燥調製施設を利用するなど、低コスト化による収益の安定化を図り、地主組合員から安心して農地を託すことができる組織運営に今後とも取り組んでいくそうです。

少子高齢化や担い手不足、農家の



事業承継が大きな課題となっている昨今、今回の研修は成功モデルとして良い勉強になりました。

スピード感を持って事業承継に取り組むことが必要と強く認識したところです。



委員のリレートーク



農業委員 和 美
佐々木

昨年四月より農業委員をさせていただいております、佐々木和美と申します。

善道農家組合に属しており、経営は、稲作一〇haと柿六〇a、ミニトマト二・五aを作付しています。二児の母で、子育て中ですので、日々奮闘しているところです。

自分が子供の頃は、家が兼業農家で、木製の苗箱に敷く新聞紙を箱に合わせてカットする手伝いをしたり、田植えの時期には親戚数家族が泊りで手伝いに来てくれ、とても賑やかで、子供なりに楽しみであったことを懐かしく思います。

一時期、地元を離れ東京や大阪で暮らしていましたが、その時、秋葉

区の野菜の美味しさに改めて気付かされたものです。中でも、「枝豆」や「かきのもと」は格別な旨味で、どこにも負けない味だと実感しました。その素晴らしい野菜を子供たちにも食べさせてあげられることは、何よりも幸せなことだと思います。この豊かな自然や農地を未来の子供達により良い状態で繋いでいくために、先輩農業委員の方々、地域の農家の皆様からご指導、ご助言いただきながら、これからも農業委員活動を頑張っていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。



農地利用最適化推進委員 一 秀
石塚

昨年四月、農地利用最適化推進委員となり、九ヶ月がたちました。

先行き不安でしたが、その九ヶ月間に何回かの研修に参加し、推進委員としてこれからやるべき事を考えてみました。

農地パトロールに初めて参加し感

じたこと、それは、推進委員になる前、普段、気にも留めなかった遊休地の恐れのある農地があることでした。すなわち、どのくらいの農地がどのくらい先に遊休農地となる恐れがあるのか、また、農業者の高齢化、担い手はいるのか等の問題です。「十年先なんて分からないから考えられない。」ではなく、「今から考えなければ、十年先に明るい農業はない。」のではと思いました。

農地を残し、活かして、耕し続けることができる将来を個人、法人、集落営農等で作っていかたいと思います。

まずは、地域での話し合いから将来の農地・農業のあり方について考える時間を持ちたいと思います。

推進委員としての三年間の任期の間に、色々な研修等に参加し、学び、多少なりとも地域に貢献できればと考えています。



償却資産(固定資産税)の申告が必要です!

ビニールハウスや農機具(自動車税・軽自動車税の対象を除く)など、事業のために所有している資産は、確定申告とは別に固定資産税の申告が必要です。

1月1日現在の所有状況を記載した申告書を忘れずに市の固定資産税の窓口にご提出ください。詳しくは下記までお問い合わせください。

(お問い合わせ・申告先)

新潟市 市税事務所 資産税課 償却資産係

〒951-8550 新潟市中央区学校町通1番町602番1 Tel 0250-226-2277 (直通)

Mail shisanzei.to@city.niigata.lg.jp